

■ 令和 6 年度音楽研究科博士前期課程入試 実技試験内容及び課題曲

I. 作曲領域の提出作品

4 曲以上（種類は問わない）の作品を提出してください。

※ 提出作品は楽譜または CD(-R) や DVD(-R) 等 (USB メモリや SD カード等に記録した映像や音声データでも可) で提出してください。ただし少なくとも 2 作品は楽譜の形で提出してください。作品資料提出はコピー (A3 サイズ以下) とし、氏名、題名、制作年を明記、必要があれば補足説明なども付けてください。必ず本人の制作物とします。

(作品は後日返却しますので、返却返信用封筒を同封してください)

II. 音楽学領域の研究計画書

4,000 字程度の研究計画を所定の様式で、提出してください。

III. 声楽領域実技

(1) アリアと歌曲の両方によって構成する 10 分以上 15 分以内のプログラムを組み、入学願書の「受験曲目」欄に【①作曲者名、②曲名、③曲ごとの演奏時間】を記入し提出してください。演奏時間には曲間は含みません。実質的な演奏時間が 10 分未満の場合は失格とします。

※ アリアと歌曲の両方を必ず演奏してください。

※ アリアは、オペラ・アリア、オペレッタ・アリア、コンサート・アリア、あるいは宗教曲のアリアとし、原則として原調での演奏とします。

※ 演奏はすべて暗譜でおこなってください。

※ 作曲者を問わず、歌詞は原則として原語とします。

※ 曲目は当日指定する場合があります。

(2) 受験者は伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。

IV. 鍵盤楽器領域（ピアノ）実技

下記の(a)(b)(c)を必ず含むピアノ独奏作品による 40 分以上のプログラムを用意してください。

(a) バロック時代の任意の作品

(b) 古典派 (J. Haydn、W. A. Mozart、L. v. Beethoven に限る) の任意の作品

(c) ロマン派以降の任意の作品

※ 出版されている作品に限ります。内部奏法などの特殊奏法を用いた作品は不可。

※ (a)(b)(c)はそれぞれ複数曲の選択も可。

ただし、入学願書の「受験曲目」欄に記載した順番で演奏してください。

※ 暗譜で演奏してください。演奏をカットする場合、あるいは演奏箇所を試験当日に指定する場合があります。

V. 弦楽器領域実技

<弦楽器領域共通事項>

- (1) 時間の都合により演奏をカットする場合があります。
- (2) 他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。

○ヴァイオリン

次の2曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Sonaten für Violine solo g-moll BWV1001、a-moll BWV1003、C-dur BWV1005
より任意の Fuga を1曲。原典版の使用が望ましい
- (2) 次のグループ(a)~(g)より任意の1曲の第1楽章。カデンツァを含みます。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
使用版は自由

- (a) L. v. Beethoven: Konzert D-dur Op. 61
- (b) J. Brahms: Konzert D-dur Op. 77
- (c) F. Mendelssohn: Konzert e-moll Op. 64
- (d) P. Tchaikovsky: Konzert D-dur Op. 35
- (e) A. Dvořák: Konzert a-moll Op. 53
- (f) J. Sibelius: Konzert d-moll Op. 47
- (g) B. Bartók: Konzert Nr. 2 Sz. 112

○ヴィオラ

次の2曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Suiten für Violoncello solo BWV1007~1011 より任意の Prélude を1曲。
使用版は自由
 - (2) 次のグループ(a)~(c)より任意の1曲の第1楽章。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
使用版は自由
- (a) W. Walton: Konzert
 - (b) P. Hindemith: “Der Schwanendreher”
 - (c) B. Bartók: Konzert (遺作)

○チェロ

次の2曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Suiten für Violoncello solo Nr. 2 BWV1008、Nr. 3 BWV1009、Nr. 4 BWV1010
より任意の Prélude を1曲。使用版は自由
 - (2) 次のグループ(a)~(d)より任意の1曲の第1楽章。カデンツァを含みます。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
使用版は自由
- (a) J. Haydn: Konzert C-dur Hob. VIIb: 1
 - (b) J. Haydn: Konzert D-dur Hob. VIIb: 2
 - (c) A. Dvořák: Konzert h-moll Op. 104
 - (d) R. Schumann: Konzert a-moll Op. 129

○コントラバス

次の2曲を、いずれもソロチューニングで演奏（暗譜）してください。

- (1) H. Fryba: Suite im alten Stil (A Suite in the Olden Style) für Kontrabass solo
より Prélude 使用版は自由
 - (2) 以下の協奏曲の中から1曲を選び、その第1楽章および第2楽章。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
使用版は自由
- S. Koussevitzky: Konzert fis-moll
G. Bottesini: Konzert Nr. 2 h-moll

○ハープ

次の2曲をすべて繰り返しなしで演奏（暗譜）してください。受験の際は本学の楽器を使用してください。

- (1) F. Godefroid: Etude de concert Op. 193 使用版は自由
- (2) C. Salzedo: Variations sur un thème dans le style ancien 使用版は自由
(8番バリエーションの終わりに明記されているカットを行なって演奏すること)

VI. 管・打楽器領域実技

<管・打楽器領域共通事項>

- ※ マリンバ（打楽器B）の受験者を除くすべての楽器の受験者は、伴奏者を同伴してください。
また、伴奏者の情報を願書に記入してください。他の実技系領域の試験が同日に行われるので、
伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。
- ※ 時間の都合により演奏をカットする場合があります。
- ※ 受験曲目については、フルート、オーボエ、サクソフォーン、パーカッション（打楽器A）、マ
リンバ（打楽器B）の曲目以外は入学願書に記入する必要はありません。

○フルート

下記の(1)(2)を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

- (1) 下記の2曲より1曲を選択し、演奏してください。
 - (a) W. A. Mozart: Concerto for Flute and Orchestra No. 1 in G major K. 313 全楽章
 - (b) W. A. Mozart: Concerto for Flute and Orchestra No. 2 in D major K. 314 全楽章
 - ・カデンツァ付き、カデンツァは任意のもの。
 - ・演奏箇所は当日指定します。
- (2) 自由曲（ただし、協奏曲は除く）
 - ・1800年以降、フルートのために作曲された作品から1曲選択すること。
 - ・7分～8分程度で演奏すること。カットして演奏することも可。
 - ・無伴奏曲も可。

○オーボエ

下記の(1)(2)を演奏してください。暗譜の必要はありません。

- (1) W. A. Mozart: Concerto in C major K. 314 第1、2楽章<カデンツァ付き>

使用版は自由

- (2) 下記の3曲より1曲を選択し、演奏してください。

- (a) H. Holliger: Sonate für Oboe solo より

Schott 版

I Präludium と II Capriccio

- (b) A. Dorati: 5 pièces pour le hautbois より

Boosey & Hawkes 版

第1曲と第5曲

- (c) G. Silvestrini: 6 études pour le hautbois より

Delatour 版または Editions du Hautbois 版

第1曲と第6曲

○クラリネット

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

- (1) W. A. Mozart: Konzert für Klarinette und Orchester K. 622

第1・3楽章はカデンツァなし、第2楽章はカデンツァありで演奏してください。

- (2) I. Stravinsky: Three Pieces for Clarinet Solo

○ファゴット (バスーン)

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

- (1) F. Devienne: Sonata in F Op. 24 No. 3

1. Allegro 2. Largo 3. Rondo Allegretto

- (2) E. Bozza: Récit, Sicilienne et Rondo

○サクソフォーン

下記の課題曲と選択自由曲1曲を演奏してください。

- (課題曲) J. Ibert: Concertino da camera より第1楽章 (暗譜)

A. Leduc 版

(自由曲) 下記の曲より1曲を選択し、演奏してください。暗譜の必要はありません。

- (1) A. Wagnelin: Rhapsody for Alto saxophone and orchestra or piano より

Scherzando 版

任意の2つの楽章

- (2) E. Denisov: Sonate pour Saxophone Alto et Piano 全楽章

A. Leduc 版

- (3) P. Creston: Saxophone Concerto Op. 26 より

G. Schirmer 版

第1、第2楽章、もしくは第2、第3楽章

- (4) E. Larsson: Concerto for Saxophone and String Orchestra Op. 14 より

Gehrmans 版

第1、第2楽章

- (5) L. Robert: Cadenza pour Saxophone mib et piano

Billaudot 版

- (6) I. Gotkovsky: Concerto pour Saxophone alto et orchestre

Transatlantiques 版

- (7) P. Bonneau: Capris en forme de valse

A. Leduc 版

- (8) 棚田文紀: Mysterious morning III

Lemoine 版

- (9) L. Berio: Sequenza VII b

Universal 版

- (10) A. Desenclos: Prelude Cadence et Finale pour Saxophone Alto et Piano

A. Leduc 版

課題曲から始め、自由曲は当日指示の通りに演奏してください。(自由曲は最大で約10分程度の演奏時間のため、それを越える曲は演奏箇所を当日試験官が指示します。)

○パーカッション（打楽器 A）

願書、受験者写真票及び受験票「志望領域」欄に、「パーカッション（打楽器 A）」と記載してください。

下記の2曲を演奏してください。

- (1) セットアップを含む楽器編成による任意の楽曲(10分程度、省略可)
- (2) ティンパニによるオーケストラスタディ

G. F. Händel: Der Messias HWV56 より Hallelujah (ピアノ伴奏付き)

ピアノ伴奏譜は Breitkopf 版 (Edition Breitkopf 2419)を使用してください。

- ・課題(1)の曲目は、入学願書の「受験曲目」欄に記入し、提出してください。
- ・入学願書の「受験曲目」欄に、使用する楽器（持参する楽器も含む）を記入してください。
- ・大物打楽器は本学所有のものを使用いただけますが、持参する楽器がある場合は、出願の際に申し出て、搬入・搬出方法について本学と協議してください。
- ・課題(1)の譜面は、出願書類に同封し、提出してください。

○マリンバ（打楽器 B）

願書、受験者写真票及び受験票「志望領域」欄に、「マリンバ（打楽器 B）」と記載してください。

下記の曲を演奏してください。

マリンバによる、12分程度の無伴奏独奏曲（省略不可）。暗譜で演奏してください。

（参考例）向井耕平：Prelude and Allegro

A. Viñao: Khan Variations

J. Schwantner: Velocities

R. R. Bennett: After Syrinx II

- ・上記の曲目は、入学願書の「受験曲目」欄に記入し、提出してください。
- ・上記の譜面は、出願書類に同封し、提出してください。
- ・マリンバは本学所有のもの（ヤマハ：YM-5100A）を使用してください。

■令和6年度音楽研究科博士前期課程入試 試験問題

西洋音楽史（作曲／声楽／鍵盤楽器／弦楽器／管・打楽器領域）

【試験問題】

I. 次の（1）～（6）からひとつ選び、具体的な作品を挙げながら自由に論じてください。文字数の制限はありません。

- （1）J. S. バッハの声楽を含む作品
- （2）ヴィヴァルディの協奏曲
- （3）ドビュッシーのピアノ作品
- （4）ヴォルフの声楽作品
- （5）バルトークの器楽作品
- （6）ショスタコーヴィチの器楽作品

II. 次の（1）～（4）からひとつ選び、18世紀後半から19世紀末までの変遷を説明してください。その際、18世紀後半、19世紀前半、19世紀後半から、それぞれ1曲ずつ重要な作品を挙げて論じてください。文字数の制限はありません。

- （1）交響曲
- （2）ピアノ・ソナタ
- （3）オペラ
- （4）室内楽

III. 問題文に合うように、語群から正しいものを選んでください。

12世紀後半～13世紀のフランスで活躍したレオニヌスやペロティヌスは（1）楽派と呼ばれる。彼らが作曲した（2）では、長く引き伸ばされたテノール声部の上に新たな旋律がつけられた。13世紀後半になると、多声音楽の各声部に異なる歌詞をつけた（3）というジャンルが誕生した。ヴィトリの（3）では、一定の旋律型とリズム型を組み合わせた「アイソリズム」の技法が使われた。

16世紀には、オケゲムやジョスカン・デ・プレなどの（4）楽派が活躍した。またこの時代、ヨーロッパ各国では特色あふれる世俗音楽が発展した。イタリアでは軽やかな旋律によるフロットラや、言葉と音楽の関係を重視する（5）が流行した。さらに、宗教改革によって、ドイツではルター派の礼拝で歌われる単旋律賛歌である（6）が成立した。

バロック時代はオペラの誕生とともに幕を開ける。フィレンツェのアカデミーのひとつ（7）は、ギリシア演劇を模範とする音楽のあり方を唱え、オペラの誕生を促した。初期のオペラでは、単旋律をバスと和音で支える（8）様式や、語りと歌の間のようなレチタティーヴォ様式が用いられた。器楽の分野では、ソナタは楽章構成の点から（9）と（10）に分けられる。（10）は速度や拍子の異なる舞曲からなり、のちに「組曲」へと発展した。

1720年代～1780年代の前古典派の時代、社会体制の変化にともない、音楽のあり方は大きく変化した。オペラの分野では、イタリアにおいて、伝統的な題材を用いるオペラ・セリアと、庶民的な題材による（11）が流行した。その後、フランスではペルゴレーシのインテルメッツ《奥様女中》の上演をきっかけに、イタリア・オペラとフランス・オペラの優劣を争う「（12）」が起こった。

古典派の時代には、交響曲、弦楽四重奏曲、鍵盤楽器のソナタなど、器楽曲の形式が確立した。ハイドンは（13）侯爵家に仕える中で、多数の交響曲や弦楽四重奏曲を作曲し、これらのジャンルの「ひな形」を作り上げた。その特徴の一つが、《ザロモン交響曲》で確立された、オーケストラにおいて各一对の木管楽器をそなえる（14）である。

19世紀はロマン派の時代である。この時代には、音楽と文学、絵画などとの結びつきが重視され、具体的なタイトルや説明文をもつ標題音楽が発展した。その代表的なジャンルとして、シューベルトの《楽興の時》やシューマンの《子供の情景》のような（15）と、リストがオーケストラにおいて創始した（16）が挙げられる。オペラにおいては、（17）が詩と舞台美術、音楽、演出が一体となった「楽劇」を作り上げた。

20世紀初頭には、シェーンベルク、ベルク、ヴェーベルンらの（18）楽派により、人間の生々しい感情を強調する「表現主義」の音楽が書かれた。1920年代に入ると、シェーンベルクは調性に代わる新たな音楽語法として十二音技法を考案した。第2次世界大戦後には、シュトックハウゼンらにより、十二音技法を発展させた「（19）音楽」が書かれるようになった。アメリカでは

(20) が偶然性・不確定性の音楽を考案し、従来の作曲や音楽表現のあり方を根本から問い直した。

語群

あ	カメラータ	さ	モンテヴェルディ	な	セリー
い	性格的小品	し	モノディー	に	フランドル
う	教会ソナタ	す	ケージ	ぬ	ブルゴーニュ
え	百科全書	せ	ブフォン論争	ね	室内ソナタ
お	ノートルダム	そ	オペラ・コミック	の	シャンソン
か	新ウィーン	た	オペラ・ブッフア	は	二管編成
き	コラルル	ち	R. シュトラウス	ひ	ライヒ
く	交響詩	つ	幻想交響曲	ふ	マドリガーレ
け	新ドイツ	て	オルガヌム	へ	ヴァーグナー
こ	モテット	と	エステルハージ	ほ	ハプスブルク

【出題の意図】

大学院での研究に必要な音楽史の基礎的知識を備えているかを問う。音楽史におけるさまざまな様式を認識し、それを歴史的な脈絡で捉えるための知識が必要とされる。

【解答】

I (記述式問題のため、省略)

II (記述式問題のため、省略)

III (1) お (2) て (3) こ (4) に (5) ふ (6) き (7) あ (8) し (9) う
(10) ね (11) た (12) せ (13) と (14) は (15) い (16) く (17) へ
(18) か (19) な (20) す

音楽学 (音楽学領域)

【試験問題】

I. 別紙の文章を読んで、あなたはどのように研究に活かしますか。自由に論じてください。なお、文字数の制限はありません。

【出典】

・杉本秀太郎『洛中生息』(1976年)

II. 次の(1)～(10)からひとつ選び、論じてください。なお、文字数の制限はありません。

- (1) 音楽メディアの変遷と音楽
- (2) 西洋音楽の伝播と受容
- (3) 音楽史における地域史
- (4) 音楽におけるイメージと実像
- (5) 伝統音楽にみる継承と発展
- (6) 地方の音楽文化
- (7) 日本の楽器産業の盛衰
- (8) 楽器改良と音楽作品
- (9) 音楽ジャンルの越境と融合
- (10) ポピュラー音楽にみるジャンルの誕生

【出題の意図】

大学院における音楽学研究に必要な基礎的知識および理解力、資料読解力、論述力を備えているかを問う。

【解答】(記述式問題のため、省略)

外国語〔英語・独語・仏語・伊語〕(作曲／声楽／鍵盤楽器／弦楽器／管・打楽器領域)

【出題の意図】

大学院での研究に必要な外国語の文献を理解する能力を備えているかを問う。外国語の文章の語句、節、文レベルの理解だけでなく、段落全体の論旨の展開を把握する読解力が必要とされる。また、解答に際しては原文の理解を正確な日本語で訳出することが求められる。

【出典】

〔英語〕・Clarke, Eric. “Understanding the Psychology of Performance.” In *Musical Performance: A Guide to Understanding*, edited by John Rink, 59-72. Cambridge: Cambridge University press, 2002.

- ・Perchard, Tom, Stephen Graham, Tim Rutherford-Johnson and Holly Rogers. *Twentieth-Century Music in the West: An Introduction*. Cambridge: Cambridge University Press, 2002.

〔独語〕・Ulrich Schreiber: *Opernführer für Fortgeschrittene*. Bärenreiter-Verlag 2013.

〔仏語〕(令和6年度は実施しなかったため、令和5年度の出典を掲載しております。)

- ・Madame de Staël, *De l'Allemagne*(1813), GF-Flammarion, Paris, 1968.

〔伊語〕・Sonia Baiini, Silvia Consonno, *Verbi italiani*, 2004

- ・Mauro Pichiassi, Giovanna Zaganelli, *Contesti italiani*, 2012

外国語〔英語〕(音楽学領域)

【出題の意図】

大学院における音楽学研究に必要な、語学の能力を備えているかを問う。

【出典】

〔英語〕・Stuart Campbell (ed.). *Russians on Russian Music, 1830-1880*. Cambridge University Press, 1994.

- ・Stefanie Beghein, Bruno Blondé & Eugeen Schreurs (eds.). *Music and the City: Musical Cultures and Urban Societies in the Southern Netherlands and Beyond, c. 1650-1800*. Leuven University Press, 2013.

※外国語の試験問題は、本学管理棟3階入試課において閲覧できます。

(閲覧時間 平日午前9時から午後5時まで)